

こくふ歴史観光まちづくりプラン (案)

令和6年 月
鳥取市国府地域振興会議

1 はじめに

悠久の歴史を誇る鳥取市国府町は、「万葉のふるさと」と言われています。奈良・平安時代には、因幡国^{いなばのくに}の国庁が置かれ、その地方の政治・経済・文化の中心地として栄えてきた場所とされており、山陰道六ヶ国でも上国に位置づけられ、国守に万葉集を編纂した大伴家持^{おおとものやかもち}、小倉百人一首で有名な在原行平^{ありわらのゆきひら}、鎌倉幕府を代表する大江広元^{おおえのひろもと}などが赴任しています。

このようなことから国府地域には各時代を通じて遺跡や廃寺跡など、多くの文化財、史跡が存在し、全国的に高い評価を受けています。

また、山陰海岸ジオパークの一角を成す扇ノ山、日本の滝百選の雨滝といった魅力ある自然景観とともに、平成19年に国重要文化財に指定された旧美敷水源地水道施設、流域治水の要であり平成24年に完成した殿ダム、地域振興の核施設として平成6年に開館した鳥取市因幡万葉歴史館、日本遺産に認定された麒麟獅子舞、県無形民俗文化財の因幡の傘踊りなど、多くの来訪者を惹きつける観光素材が多数存在しています。

しかしながら、人口減少が進み地域の活力が低下しつつある中で、これらの観光素材が地域振興や賑わいの創出にうまく活用できているのか、次世代を担う若い世代に国府地域の魅力は正しく伝えられているのか、などの思いも地域を愛する住民は日常的に感じているところではあります。

そこで、令和4年度の地域振興会議において、これからの国府地域の持続的な活性化に向けた主要テーマとして「史跡・文化財・観光をテーマとしたまちづくり」を決定し、テーマに沿った研究と議論を重ねるとともに、国府地域の観光振興を再構築するための計画づくりを進め、令和6年〇月、「こくふ歴史観光まちづくりプラン」を策定しました。

このプランに掲載されている多くの取り組みを具体的に展開することにより、今後の国府地域において、史跡・文化財・観光によるまちの賑わいづくりが持続的に展開されることを願うものです。

2 基本的な考え方

本プランは、鳥取市の施策の一環で策定したものではなく、国府地域振興会議が独自に調査・研究を行ったうえで策定したものです。国府地域の住民が、自発的に本プランの趣旨に賛同し、民間活力を駆使して独自事業を進めることを促すとともに、鳥取市に対しては、このプランを元にした政策の提案と具体的施策化を要請することを想定しています。

国府地域のあるべき将来像とともに取り組みの方向性を示した5つの柱を設定し、具体的取り組みについては、鳥取市をはじめとする事業実施者が柔軟に取り組むことを期待します。

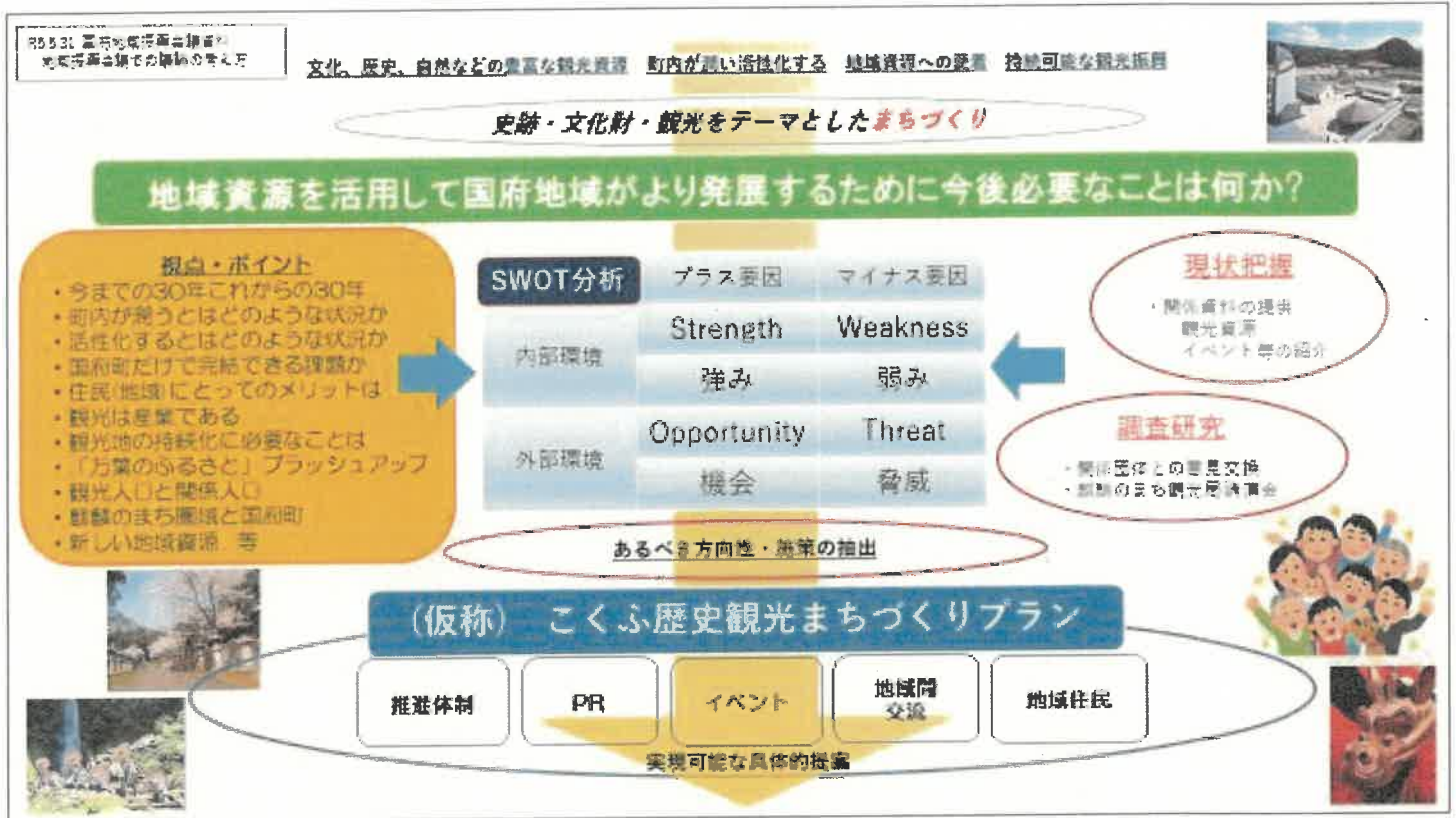
本プランを、可能な限り国府地域の住民、教育機関、各事業所等に広く周知し、史跡・文化財・観光による新たなまちづくりの指針として幅広く活用されるよう、本プランの認知度の向上に努めることとします。

3 現状と課題

国府地域振興会議では、国府地域の史跡・文化財・観光分野での現状と課題について、議論・研究を行いました。議論にあたっては、SWOT分析の手法を取り入れ、意見を集約しました。

主な結果としては、過疎化・高齢化の進展、情報発信力の弱さ、人材・ブランド力の不足、といった事例が挙げられ、国府地域での賑わいづくりにとって多くの課題があることが浮き彫りとなりました。

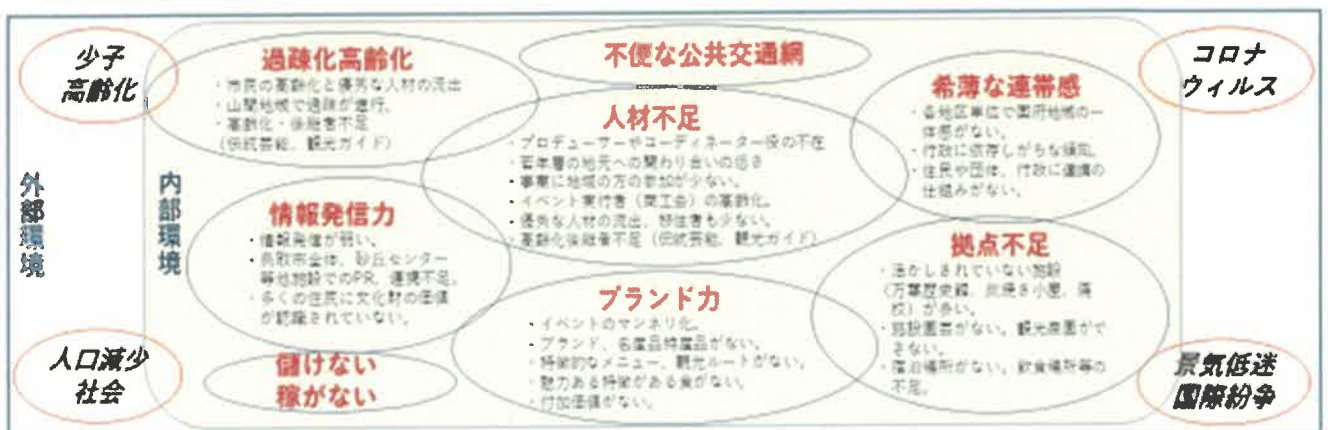
【分析に向けての前提資料】



【分析の結果】

	プラス要因	マイナス要因
	強み	弱み
内部環境 【国府町が保有している資源(ヒト・モノ・カネ・情報)】	<ul style="list-style-type: none"> 外部から来た人との適度な距離感、市街地帯は若者が多い。 多くの人にはやる気がある。 地区公民館が活性化活動をよく頑張っている。 地域が独自に実施する事業(ホテルまつり、美敷水源池、池田家墓所)は長続きしている。 ガイドクラブ・文化協会など、文化に関わる組織がある。 農業生産加工販売組織(兔っ兔ワイナリー、福田農園、アスパラ、就農舎等)がある。 果樹園(梨・ブドウ・メロン)、美敷牧場がある。 日本一の女性ハンターがいる。 県内で鹿の捕獲数が多い(ジビエ利用) 遺跡などが集中し、短時間で見学可。各種イベント開催。 旧市域と連携可能な距離感。 市街地からのアクセスの良さ。 万葉歴史館・廃校等の施設。 テーマ別にストーリー展開できる資源がある。 各時代の文化財が揃っている。 古代:宇倍神社(祭)、柄本廃寺(ホテルまつり) 近世:池田家墓所(保存会)、近代:美敷水源池(自治会) 平成:殿ダム(殿ダム支所) 雨滝・扇ノ山等の自然、ジオパーク。万葉集・古代歴史遺産。 因幡の傘踊り発祥の地。 人を国府町に引き付ける強烈な特徴のある観光資源 まだ知られていない、手つかずの資源がある。 施設独自の来訪者への対応は宇倍神社だけだったが、現在は各施設で対応。+ガイドクラブ。 関係人口創出の機会があるイベントがある。(大茅ホテルまつり、盆野球、万葉ウォークラリー大会等) 桜ライトアップや吉野そば、クー等魅力的な取組がある。 商業施設(マルイ、ナフコ、サンマート)がある。 コンビニ(ファミマ、ローソン2)がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の高齢化と優秀な人材の流出。 市街地隣接地区は人口が増えているが、山間地域で過疎が進行。 プロデューサーやコーディネーター役の不在。 若年層の地元への関わり合いの低さ。 行政に依存しがちな傾向。(主体は地域、行政は支援) 事業(マstromりなど)に地域の方の参加が少ない。 住民や団体、行政に連携の仕組みがない。 良好な素材はあるが付加価値がついていない。団体の連携がない。 各地区単位で国府地域の一体感がない。 情報発信が弱い。多くの住民に文化財の価値が認識されていない。 宿泊場所がない。飲食場所等の不足。 活かしきれていない施設(万葉歴史館、炭焼き小屋、廃校)が多い。 公共交通が弱い。 地理的に観光に不利。(鳥取県の主要観光の流れからは外れどん詰り) イベントのマンネリ化。 高齢化・後継者不足。(伝統芸能、観光ガイド) 施設開業がない。観光農園ができない。 ブランド、名産品特産品がない。 特約的なメニュー(興味がある者には人が集まる)、観光ルートがない。 魅力ある特徴がある食がない。 儲かる仕組みがなく、中心となる人の善意と意欲のみで継続性困難。 鳥取市全体、砂丘センター等、他施設でのPR、連携が不足している。 連携した取り組み不足。市内への移住者は多いが国府町は少ない。
外部環境 【国府町をとりまく外的環境・要因、社会や市場の変化】	機会	脅威
	<ul style="list-style-type: none"> 自然志向・田舎暮らしの流行。観光がモノより体験型へ。 ふるさと回帰(ふるさと難民)。地方創生の政治的流れ。 2025関西万博、インバウンド需要、円安(内需の高まり、海外観光客からの流入) 観光会社との需要商品の確認増(池田家墓所他)。 東部地区には多くの文化遺産が存在。県内に多くの遺産が存在し、連携できる。万葉集関連遺産等全国に存在。 麒麟のまちづくりの進展。 鳥取市観光コンベンション協会との連携。 情報発信のあり方が一人の発想からどこにでも展開できる情報化社会。 生成AI、SNS、IT化で情報発信が容易に。インターネット光ケーブル開通へ。ドローン、自動運転・オフグリッド技術の向上。 新型コロナウイルス感染症が5類に移行。 アニメ「コナン」需要 クラウドファンディングの進展。 商業施設(マルイ、ナフコ、サンマート)との広報等の連携。 豊富な観光資源を小中高生に提供する機会。 小中学生の地域資源への愛着が定着するための機会。 地域の文化芸術の地産地消→消費社会から「ゆとり」を。 成長社会から定常社会へ→豊かな生活(文化・社会活動)にシフト。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少、超高齢化社会。 人材不足(若手・リーダー)、企業不足。 イベント実行者(商工会)の高齢化。 フィッシングフェスタやこどもまつり等、千人規模のイベントは感染症が流行するとすぐ中止になるので、企画するのが定期的に難しい。 新型コロナウイルス感染症。 過度な円安による経済の低迷、インフレ。 ウクライナ侵襲により経済が低迷 10月からインボイス制度導入、小さな店にはマイナス。 他県に比べ悪天候が多い。 周辺化。このままでは埋没する可能性がある。 急激な環境変化(災害等)。 急速な中山間地域から市街地への人口移動に伴う耕作放棄地や被害など、住環境の縮小がもたらす変化。 中山間地域の単独高齢世帯の増加と自治力の低下の顕在化。今後集落消滅の可能性。

★ マイナス要因(イメージ)



4 将来像と5つの柱

地域振興会議で議論したSWOT分析の結果を踏まえ、本プランに「史跡・文化財・観光をテーマとしたまちづくり」のあるべき姿を示した将来像と、その方向性を示した5つの柱を設定します。

(将来像)

豊かな観光資源と郷土愛に満ちた

人を惹きつけ感動する 万葉の里こくふ

～地域資源のフル活用による新時代のまちづくり～

(5つの柱)

将来像の実現に向け、従来の取り組みでは不足している点や、今後の持続的な国府地域での史跡・文化財・観光による賑わいづくりのために、前例にとらわれることなく重点的に取り組む必要がある事項を、5つの柱として設定し方向性を示します。

また、それぞれの柱に示すものを具現化するため、取り組むべき主な事業について記載します。

- ② 全方位に届く新時代の情報発信
- ② 感動を提供するホスピタリティ(おもてなし)
- ③ 国府ファンの持続的な獲得
- ④ 国府を舞台に活躍する人材への支援
- ⑤ 観光資源・歴史・風土の後世への伝承

5 主な取り組み

①全方位に届く新時代の情報発信

【主な取り組み】

- 国府町総合支所をはじめとしたあらゆる観光関連団体のSNSでの情報発信を推進します。
- 個別受信機を活用した放送を「お知らせ」に特化せず、エリア全体のPR番組を新たに構成し、配信を進めます。
- 総合支所だよりの紙面構成を見直し、地域資源の紹介や現状をお知らせするコーナーを設けます。
- 各種団体のHPの充実と相互にリンクする体制を整えます。
- 国府地域内の各スポットの案内板等の更新を計画的に行うとともに、音声案内、QRコード案内、AIアバター案内、多言語表記などの充実を図り、多世代で多様な国籍の来訪者がストレスなく周遊を楽しめる案内環境の構築に努めます。
- 観光、史跡情報の多言語化に取り組みます。
- 鳥取市全域の観光情報との連携を図り、市内周遊の核・ポイントとしての認知度を高めます。

②感動を提供するホスピタリティ

【主な取り組み】

- 地域住民の多くが一定のガイドスキルを持てるよう、観光ボランティアガイドの活動を支援し、国府版「観光マイスター」制度を創設し、ガイド登録を行います。
- 史跡、観光地の景観維持のため、観光ボランティア清掃の取り組みを推進します。
- 史跡、自然遺産等の維持管理活動にあたっては、市内外のあらゆる世代が幅広く参画できるボランティア制度等の仕組みを構築することで、継続的な保全活動に努めます。
- 国府町観光協会の見直しを検討するとともに、観光客受入れの窓口や情報発信の核となる新たな組織体や運営団体の構築を進めます。
- 新たな歴史的ストーリーを発掘・検討するとともに、周遊を促進するバス・ウォーキングルートなどを構築し、観光ツールとして活用します。
- 万葉ウィークや万葉月間など、一定期間「万葉のふるさと」を重点的にPRする取り組みを全町的に進めます。
- 朝市、軽トラ市も含めた個性的な飲食イベントを定期的に誘致し、エリア内の滞在時間の延伸を促進します。

③国府ファンの持続的な獲得

【主な取り組み】

- 「こくふファンクラブ制度」を構築し、定期的な情報提供とイベントにより、国府地域に親しむ機会を提供します。
- 因幡の傘踊り、麒麟獅子舞などの郷土芸能の出前講座を積極的に推進し、後継者の育成につなげます。
- 全国の「国府」や「万葉」の関連団体との相互交流を定期的に進め、国内での「鳥取市国府町」の認知度の向上に努めます。
- 「ワイン」や「ジビエ」などの国府発の魅力ある新たな製品の消費拡大を促進するとともに、新たな特産品の開発を支援し、観光と農業の連携に取り組みます。
- 万葉を愛でる風土と豊かな自然環境の中で生活を営む「因幡こくふライフ」の魅力を内外にアピールし、移住や交流人口の拡大を推進します。
- 県外からの国府への移住を進めるため、窓口となる組織の設立を支援するとともに、大都市圏での移住定住イベント等への参加を推進します。

④国府を舞台に活躍する人材への支援

【主な取り組み】

- 若年層、青年層等が、国府地域を舞台に企画運営する新たなイベント・事業等を積極的に支援します。
- 伝統芸能の担い手を市内外から幅広く確保するため、新たな支援制度を構築します。
- 国府地域の観光のキーマンとなる「エグゼクティブプロデューサー(仮称)」を任命し、その活動を支援します。
- 空き家や未利用公共施設の活用を行う団体等の活動を支援し、地域の賑わいづくりを進めます。
- 小・中学校における歴史・文化講座の開催を促進し、将来を担う人材が国府地域の魅力を認識し、愛着を持つ機会を創出します。
- 国府町観光協会、国府ガイドクラブ、国府文化協会、万葉集朗唱の会実行委員会など、史跡・文化財・観光のまちづくりに意欲のある団体や個人間の連携を促進するとともに、各団体の次世代の担い手の育成に努めます。

⑤観光資源・歴史・風土の後世への伝承

【主な取り組み】

- 山陰海岸ジオパークを形成する雨滝、扇ノ山などの自然景観、鳥取藩主池田家墓所、宇倍神社、岡益の石堂などの史跡、殿ダム、旧美敷水源地水道施設などの新たな観光スポットが、将来にわたり適切に維持管理されるよう管理者等の関係機関と地域との連携を進めます。
- 史跡、自然遺産等の維持管理活動にあたっては、市内外のあらゆる世代が幅広く参画できるボランティア制度等の仕組みを構築することで、継続的な保全活動に努めます。(再掲)
- 未解明な史跡、解釈の曖昧な歴史などについての継続的な研究を促し、正しい史実の継承に努めます。
- 国府地域内の各スポットの案内板等の更新を計画的に行うとともに、音声案内、QRコード案内、AIアバター案内、多言語表記などの充実を図り、多世代で多様な国籍の来訪者がストレスなく周遊を楽しめる案内環境の構築に努めます。(再掲)
- 市街地エリアの利便性ととも豊かな田園風景を併せ持つ国府地域の特性が将来にわたり維持されるよう、各自治会や農地の保全を促進します。

6 参考(国府地域の主な地域資源)

こくふの 「史跡・文化財」

大伴家持 万葉歌碑 (国府町方)

因幡国の国守に任ぜられた大伴家持が、万葉集4516首の最後を飾る歌をこの地で詠んだ。



新しい年の始めの初春の
今日降る雪の
いや重け苦事

新しい年の始めの今日も雪が降っています。今年もこの降り積もる白い雪のように良いことが重なりますように…。

因幡一の宮「宇倍神社」 (国府町宮下)



武内宿禰(たけうちすくね)を主祭神とする因幡の一の宮。長年や玉身出世の神として崇敬を集めており、初詣には4万人近い参拝客で賑わい見られる。
社殿は、明治18年に発行された一円、五円紙幣の裏面に採用されている。



国指定史跡

伊福吉部徳足比売墓跡 (国府町宮下)



1774年に埋没状態で発見された古墳群には、「古代因幡の歴史」伊福吉部氏の埋没比売墓跡。伊福吉部氏は武内宿禰の時代に大和の宮廷に仕え、後醍醐天皇を輔佐したが、788年に大和で亡くなり、大和に比売の御葬儀に送られ、古墳群に大井で葬られたと記されている。
伊福吉部は、現在京都市立博物館に所蔵されている。



国指定史跡

鳥取藩主「池田家墓所」 (国府町真谷)



池田家初代藩主・定村から11代・定宗までの歴代藩主等、78基の墓所と270余の灯籠が整然と立ち並ぶ。墓を象った「亀形(かま)」と呼ばれる白石の円筒扁平な墓標を立てた柱状大石墓所は貴重。四季長々の美観も見どころ。



国指定史跡

因幡国方跡 (国府町中舞)



奈良から鎌倉時代かけて、この地の政治・経済・文化の中心地であった「因幡国府」が置かれた。
明治132年に、わずかに20cmの地下から柱礎を掘った遺跡を発見。史跡公園内には石柱を復元。

友成天皇御陵兼古墳

岡茎の石堂 (国府町岡茎)



大韓文化の影響を受けた新羅系古墳の建造物でエンタシス(倒置り)のある円柱や窓を新羅文様の特徴が特徴。7世紀頃の建造物とされるが、目的は不明で、地元では安徳天皇の御殿とも伝えられ「講の石堂」と呼ばれている。



国指定史跡

梶山古墳 (国府町岡茎)



中瀬地方で初めて彩色壁画が発見された7世紀前半の古墳。
安徳の御殿(魚の池)とその上の「龜形文」、両側が同心円と「三角文」が描かれている。
切り石の立派な石室を持ち、底面八角形に大規模な方形墓が横たわった大変珍しい古墳。



長通寺 (国府町内基)

高取市出身の日本絵師「八百谷浄庵 (やぶたにじやうあん)」の筆による、日本神の羅れ狂う姿を豪快に描いた「大波神 (おほなみのかみ)」をはじめとした佛像は高評額を得ている。




観音堂予約 (入館料600円)
TEL: (0857) 24-7733

国指定重要文化財 学行院 (国府町松尾)

歌麿時代には、平安時代の後期に制作されたとみられる本造草創三尊像 (観音如來像・日光菩薩・月光菩薩) と、本造古神天立像の四体が安置されている。
「別名: 土堂草創 (つちどうそうじゆ)」




TEL: 土堂 (0857) 58-05175
(無観音堂予約)

国指定史跡 栢本廃寺跡 (国府町栢本)

7世紀から10世紀頃まで存在していた古代寺院跡。全国的にも珍しい東塔と南塔を併置した御霊院 (みたまのいら) を持つ跡の多い史跡。発掘調査・保存整備された後、現在は史跡公園として整備されている。




高30m 塔高10m

鳥取市「因幡万葉歴史館」 (国府町町屋)

奈良・平安時代に因幡国庁が置かれ、「万葉集」にも記された因幡国庁の古代の歴史や文化、因幡国庁に関する展示を備えたミュージアム。古代遺跡の複製展示、万葉の新文化、「磐城御子」や「因幡の春原野」などの因幡国庁をテーマに再現して紹介。




TEL: (0857) 26-1790
(休館日: 月曜日・年末年始)

平成のピラミッド「殿ダム」 (国府町殿)

約50年の歳月をかけて平成23年に完成。高さ75m (塔内1巻の高さ)、塔頂長29kmの曲しロックアール型ダム。洪水調整・水道用水・水力発電などの機能を併せ持つ。




国土交通省 殿ダム管理支所
TEL: (0857) 58-0581

殿ダム交流館 (国府町殿)

殿ダム建設の経過などの資料をわかりやすく展示するほか、殿ダム周辺広場の管理運営を行っている。




TEL: (0857) 77-1007
(休館日: 月曜日・年末年始)

国指定重要文化財 「旧美敷水源地水道施設」 (国府町美敷)

大正4年(1915年)に竣工した山陰最古の水源地施設。近代水道施設の構成を知ることができる重要な文化財。







こくふの 「癒しの空間」

日本の滝百選

雨滝 (国府町雨滝)

扇ノ山を頂とする奥州の上流にある高さ40m、幅4mの跌瀑。そぞり立つ断崖絶壁から轟音を発して落ちる姿は感動的。また、雨滝から徒歩約15分に控える三段滝「宮滝はこだせ」もお勧め。



河合谷高原 (国府町雨滝)

夏場は眼下に壮大な牧草地が広がる。「水とのふれあい広場」の湧き水も人気。

扇ノ山 扇ノ山 扇ノ山 扇ノ山 扇ノ山



扇ノ山 扇ノ山 扇ノ山 扇ノ山 扇ノ山

扇ノ山 (国府町雨滝)

標高1,319m。山頂の地形と谷が扇を広げたように見える。中国自然歩道歩道の「河合谷コース」は比較的なだらかで、初心者にも人気の登山ルート。中道に広がるブナの樹林帯は、マイナスイオンに包まれる癒しの空間。



こくふの 「伝統芸能」

鳥取県指定無形民俗文化財

「国府町因幡の傘踊り」

108個の小舞をつけ美しく飾られた長柄の傘を振り回す男社で激しい踊りで、国府町高岡が発祥の地。県を代表する伝統は観光地として国内外を問わず公開依頼がある。

1963年 国府町

2012年 国府町



鳥取県指定無形民俗文化財

日本遺産認定

「因幡の麒麟獅子舞」

およそ350年前に鳥取藩主・池田光仲により興されたとされる民俗芸能。頭に一本の角を持ち、髯や(ひげ)と呼ばれる先鋒役に導かれて厳かに舞を行う。

